

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	石山 晃世志
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Effect of Spraying L-menthol on Peristalsis Resumption During Endoscopic Submucosal Dissection of Gastric Tumors (胃腫瘍のESDにおける再蠕動に対するL-メントール噴霧の有効性の検討)
	掲載誌 An Open Access Journal of Gastroenterology and Hepatology 2021;5:653-657
	主査 大坪 毅人 副査 松本 直樹 副査 民上 真也
[論文の要旨・価値] 早期胃がんに対する治療のひとつとして Endoscopic Submucosal Dissection（以下 ESD）は本邦で開発され広く世界で行われている治療法である。治療中に蠕動が起こった時には蠕動を抑制するために抗コリン剤やグルカゴンなどが使用されるが、心疾患、前立腺疾患、緑内障、糖尿病を有する患者には使用困難となる症例が少なくない。このような併存疾患の併存する割合の高い高齢者においても副作用なく胃の蠕動を抑えることのできる薬剤の必要性は大いにある。ペパーミントオイルは消化管蠕動の抑制効果があり L-メントールとして商品化されている。申請者らは、L-メントールをもちいて ESD 中に蠕動が起こった際、切除中に露出した粘膜下層に直接 L-メントールを噴霧することの有用性と安全性について検討を行った。対象は 116 例 127 病変である。蠕動が抑制されたものは 117/127 (91.5%)。蠕動抑制発現までの時間は 8.7 秒。蠕動抑制効果、蠕動効果発現時間に胃の部位（Upper, Middle, Lower: 前壁、後壁、小弯、大弯）での有意差なし。L-メントール投与による有害事象はなかった。本研究は低侵襲治療として普及している ESD の実施中蠕動を L-メントールの粘膜下層へ直接噴霧することで速やかに有害事象なく抑制し、手技の安全性を高めることを示した価値ある論文である。	
[審査概要] 学位審査は、令和 5 年 9 月 6 日午後 5 時よりおよそ 1 時間、大学院講義室において、指導教授の陪席のもと行われた。まず、申請者より研究内容についての発表の後、内容について質疑応答が行われた。発表内容は理解しやすいものであった。副査及び主査からの研究の目的、方法、結果の解析、今後の展望に関する質問に対し、申請者は常に真摯な態度で対応し、いずれの質問に対しても的確に返答していた。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 英語の読解力については、引用文献の一部の音読、和訳により判断した。本審査を通して申請者は十分な研究能力、専門的な学識、英語読解力を有すると判断できた。以上より、申請者石山 晃世志氏は学位授与に値すると判断した。	